

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

377号

2022年7月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 統一マダン生野の成功を、感謝の意を込めて報告します

## 第27回統一マダン生野実行委員長 金昌範(キム・チャンボム)

## ●ぎりぎりの開催決定、街中に映る厳しい現状

6月5日日曜日、実に3年ぶりとなる第27回統一マダン生野を開催しました。

実行委員会の立ち上げが昨年12月と従来と変わらなかったものの、その後はコロナ禍の影響から開催可否の最終判断が3月末になったため、本格稼働したのは例年より1ヶ月遅れ。その影響は出演、出店、宣伝、賛同広告を含めすべての部門に及びました。特に今年は恒例の韓国からのゲスト出演が、やはりコロナ禍で叶わなかったため、舞台の骨格作りや出演者の確定は期限ぎりぎりに至りました。

各部門の中でも最も動きが遅れたのは宣伝活動でした。しかも例年のようにポスター貼付依頼に地域を回ると、街の様相の変化に気づかされました。少子高齢化進行の影響か廃屋が目立ち始め、いつもポスターを貼ってもらっていた商店、飲食店の中にはすでに閉店状態の所もあり、その環境変化に胸が痛むほどでした。

## ●苦戦を救った、統一マダン生野を愛する人たち

しかし徐々に良い話も増えました。ポスターを持って回ると「統一マダンやんねんて！」と声を弾ませる子ども。感慨深げにポスターを眺めつつ「もっと目立つところに貼り」と言ってくれる店主。そんな反応から沢山の人たちが統一マダン再開を待ち望んでくれたんだという実感を元気の源に、限られた期間ながらさらに効果的で密な宣伝に注力しました。

出演者では、依頼しても日程が合わず出演できない結果が一時続出し苦戦しましたが、最終的には都合のつく方は全て出演を快諾。中には3週間前の依頼にもかかわらず快諾いただくなど、出演者の皆さんの好意と熱意に助けられました。

賛同広告もコロナ不況の影響から当初苦戦しましたが、周囲の友人に声をかけ賛同口数を大きく増やされる方など、強い支えをもらって乗り切ることができました。

そうして迎えた当日。定刻の正午を迎えるや続々と観客席が埋まり続け、例年より多く並んだ売店のあちこちに列ができました。多めに仕入れたビールも開始2時間後に一度完売、急ぎ追加調達したといい、この日の売店の盛況ぶりを象徴していました。

観客席の様子はというとオープニングのプンムルから最後の演目まで、ほとんどと言っていいほど席を立つ人はいませんでした。笑顔や熱い眼差しを送る人、拍手する人たちなど終始舞台と空気を共有していた様子でした。当日スタッフとして働いたある仲間の「(来場者の)皆

さんからは、6月に近づくと『統一マダン、今年やるかな?』と期待していたような雰囲気会場から感じた。2年間ブランクあったけど、それまでの積み重ねも生きて良かった」という言葉が、この日の様子をよく表していたと思います。

## ●これからの課題

皆さんに愛され、皆さんと元気を共有できることを示した統一マダン生野を、汗を流して準備した仲間は誇って良いと思います。一方で多くの人たちに支えられたことをあらためて振り返り、さらに謙虚に取り組んでいく気持ちも共有したいです。そして統一マダンを、統一という課題を象徴するだけの日に終わらせないよう、一層具体的で恒常的な統一運動に取り組んでいく意志を皆さんにお伝えしながら、感謝の言葉とします。

고맙습니다 (ありがとうございます)



▲主催者挨拶をする金昌範実行委員長、

## 3年ぶりの統一マダン生野の舞台 多彩な演目で子どもも大人も楽しむ

第27回統一マダン生野は、ハンマウムによるブンムルから舞台演目が始まりました。

次に、第1回統一マダン生野から毎回出演している文芸同大阪支部・舞踊部による朝鮮舞踊、大阪朝鮮中高級学校民族楽器部による民族楽器演奏が披露された。



▲文芸同大阪支部・舞踊部による朝鮮舞踊

(撮影::細川義人)

続いて、金昌範実行委員長が「今、平和についていろいろ考えさせられます。私たちの祖国である南北、そして朝鮮半島と日本との間で平和を実現させるためには共に仲良くすることが求められています。この2年間、コロナ禍で皆さん大変だったと思いますが、今日一日、有意義に過ごしてください」と主催者挨拶を行った。



▲ハンテプンによるサムルノリの演奏(撮影::細川義人)

その後、火曜バンドによる歌と演奏、筋原章博生野区長の来賓挨拶、おやじバンドによるバンド演奏が行われるとともに、韓国サンケン労組を支援する大阪市民の会から、韓国で不当解雇撤回などを求めて闘っている韓国サンケン労組への支援・連帯が訴えられた。

その他にも、アジアハウス子ども劇団によるタップダンス、ハンテプンによるサムルノリ、今回初出演になる姜錫子(カン・ソクチャ)さんの独唱が披露され、会場雰囲気盛り上げた。



▲ちゃんへんによるジャグリング

そして、第27回統一マダン生野のメインゲストとして招請したちゃんへんの演目では、参加者誰もが絶賛するジャグリングなどが披露され、会場の雰囲気は最高潮に。最後に再びハンテプンが舞台に上がり、参加者が手を取り合いながら「ウリエソウォン(私たちの願い)」を歌い、第27回統一マダン生野は終了した。

## ビール・焼肉・焼鳥・冷麺など出店多数



▲子どもたちに人気のスーパーボールすくい

第27回統一マダン生野では多くの団体・個人の協力を得て出店が並びました。

ビールに焼肉、焼鳥、冷麺、キムパッなどの飲食店はとても盛況でした。また毎年子どもたちに人気のスーパーボールすくいなどの出店もあり、大人も子どももとても楽しんでいました。



## 第27回統一マダン生野参加者からの感想

- ・3年ぶりの統一マダン生野が開かれて良かったです。厳しいコロナ禍、また経済状況も厳しい中で、統一マダン生野を開催できたことは嬉しいです

統一マダン生野は出演者、スタッフをはじめ皆で統一マダンを作っていると思います。コマッスムニダ（ありがとうございます）。K・Jさん

- ・3年ぶりに巽公園に来て、どのテントも人でいっぱいなんです。それを見たらとても感慨深いものあって、統一マダン生野はやっぱりいろんな人が待ち遠しい、待ちこがれるお祭りなんだなということがよくわかりました。K・Eさん

- ・活気があって良かったです。またこれからも頑張ってやっていきたいと思います。H・Mさん

- ・3年ぶりの統一マダン生野の開催、おめでとうございます。毎回誘って頂いて、楽しく子どもたちと遊べるのでうれしいです。ありがとうございます。K・Rさん



▲ハンマウムによるプンムル



▲大阪朝鮮中高級学校民族楽器部による民族楽器演奏



▲火曜バンドによる歌と演奏



▲おやじバンドのバンド演奏



▲姜錫子さんの独唱

（上記撮影：細川義人）

# 尹美香(ユン・ミャン)議員への攻撃がやまない理由、黒塗り面談記録の意味するもの ～韓国外交部の「慰安婦合意」交渉内容を 尹美香議員(当時挺対協代表)に正確に伝えていなかったことが判明～

韓日間の歴史認識問題は韓日だけを見ていては理解しにくい。韓米日の関係を見ないといけない。問題の根源は戦後の東アジアの国際秩序を決定づけたサンフランシスコ講和条約（以下サ条約）で、日本の植民地支配に免罪符を与えたことから始まる。旧ソ連崩壊後の米国一極支配から、近年東アジアにおける米中を軸にした新冷戦が始まっている今日、サ条約の重みは新たな局面を見せている。

1965年の日韓基本条約以来、米国は韓日の関係悪化に伴い米国の安全保障にひびが入るたびに両国の関係修復に関与してきた歴史がある。2015年12月の「日韓慰安婦合意」もそのような脈絡でとらえる必要がある。

朝鮮の核・ミサイル技術の高度化と多様化で米国本土防衛が切実化した。中でも韓国に配備されたサード（高高度ミサイル防衛システム）や日本に配備されたXバンドレーダーは米国のミサイル防衛の要になっており、米国が直接管理運営している。ミサイル防衛システムの完成度を高めたい米国にとって、韓日が連携して核・ミサイル情報を米国に提供するシステムは本土防衛には欠かせない。

さらに朝鮮半島有事の際、自衛隊の活用を念頭に韓日の良好な関係を維持させたい米国は、韓日の歴史認識問題、植民地清算などが浮上するたびに両国に関係修復を迫ってきた。このような背景を考慮するとき、2015年の「韓日慰安婦合意」は米国の関与によるものであったことは明らかだ。

「被害者中心の問題解決と程遠い動機からの合意は受け入れられない」と被害者と支援団体は、合意発表直後から反対する態度を表明してきた。

韓国外交部は尹錫悦政権発足直後の今年5月26日、李相得東北アジア局長（当時）と尹美香挺対協代表（当時）が韓日協議について面談した内

容を公表した。その後、韓国の保守言論と日本のメディアは一斉に「尹美香議員が合意内容を知りながら、被害者に伝えていなかった」と非難する記事を流した。しかし事実は全く違い、尹美香議員側は合意内容を正確に知らされていなかった。

面談で事前に知らされた内容は、今回の合意内容に▲日本政府の責任痛感、▲安倍総理の直接謝罪・反省表明、▲10億円水準の日本政府予算の拠出（財団設立）等の内容が含まれていると明かしたことについて（日本軍「慰安婦」問題解決全国行動ホームページより）。

知らされていなかった内容は「最終的・不可逆的解決」「少女像問題の適切な解決」「国際社会における非難・批判の自制」（以下「事前秘匿項目」とする出典：同上）

## ●尹美香代表の発言部分は 黒塗りで確認できない

上記だけでなく、肝心の尹美香議員の発言が黒塗りにされており、発言内容を確認することができない。尹美香議員は黒塗り部分まですべて公開するよう求めている。尹美香議員の30年におよぶ「慰安婦」問題解決運動は、韓日の歴史認識問題と日本の植民地主義の本質を露わにしてきた歴史でもある。

今、その業績とともに尹美香議員の社会的地位が危険にさらされている。韓国政府は拙速に「韓日慰安婦合意」に応じた責任を真剣に受け止めて、尹議員への攻撃を直ちに中止せよ！そして朝鮮半島の平和を守ってきた「慰安婦」被害者の努力に今こそ正當に評価せよ！

（鐵）





## 【コラム】

## 金炳淵こと金サッカの放浪

金炳淵こと金サッカは放浪の詩人だ。19世紀の朝鮮王朝末期、国王の外戚によって国政が壟断される勢道政治の時代、朝鮮の三千里江山を放浪して多くの作品を残し、三十三年の旅路の末に路傍で亡くなった天才詩人である。日本においては西行法師や種田山頭火を思わせる。

彼はいつも竹で編んだ笠を深く被り、竹の杖を片手に旅をした。そして「金笠（キムイプ）」、また「金サッカ（サッカは笠の意）」と呼ばれた。

放浪詩人というロマンあふれる存在だけに、彼に関する逸話は口伝で虚実曖昧なものが多い。彼が放浪の旅路についた動機もそうだ。

1811年、洪景来の乱（平安道農民戦争）が起こる。平安道一帯で起こった民衆反乱であり、その背景には朝鮮王朝による長年の平安道差別があった。風水師の洪景来が指導者となって各地の城を陥落させ、一時期は平安道の大半を支配するに至った。

金サッカの祖父である金益淳は当時、平安道の宣川府使だったが、反乱軍を前に早々に投降した。後に、反乱軍幹部の首級を手土産に政府軍の陣中まで逃げてきたが、ろくに抵抗せず反乱軍に投降したことが問題視された。また、処罰を免れようとして反乱軍幹部の首級を金銭で買って来たことも発覚し、結局、大逆の罪として斬首されてしまった。金益淳の家族もまた「滅門廢族」とされ、当時の国政を牛耳っていた安東金氏の名門だったものが、一族から追放されることになった。

しかし、金サッカは祖父が逆賊として処刑されたことを、成人するまで知らなかったという。洪景来の乱の時はまだ六歳の子供であり、避難して数年間、親元を離れていたため、詳しい事情は知り得なかった。また母親もその不名誉な過去を話そうとしなかったため、金サッカは自身を単なる没落両班の家系だと考えていた。教育熱心な母親は子供を書堂に通わせ、やがて金サッカは神童と

呼ばれるまでに学問を積んだ。

成人した金サッカはある時、白日場（学問奨励のための詩文コンクール）に参加した。その時に出された詩題が洪景来の乱における忠臣と大逆人の名を挙げ「鄭嘉山公の忠節を讃え、金益淳の罪を糾弾せよ」というものだった。金サッカは即座に長編の漢詩を作り上げ、見事壮元（首席合格）の評価を得た。

ところが家に帰り、白日場で壮元になったことを母親に話したところ、金益淳が自らの祖父であり、自身は逆賊の家系であると告白を受けた。

ここから金サッカの苦悩が始まる。自分は逆賊の子孫であり、そして自身の祖父を衆前で侮辱したこと。科挙を受けて立身するためには、祖父を糾弾しなければならないという忠孝の矛盾。この苦悩から逃れるためには、両班の、儒教社会の倫理秩序から逃げ出さなければならなかった。

かくして金サッカは二十四歳の時に妻子を捨てて旅立つに至った。

『大東奇聞』によれば、金サッカは自らを天地間の罪人であるとい

って、笠を常に深く被り天を仰ぐことを避けたとされる。また祖父を罵ったために天を上げなくなったとも伝えられる。その詩文も風刺詩や、ハングルを交ぜた諺文詩など破格の詩が多く、有り体にいえば両班の基準から外れた詩が多い。世間から離れ、天下の奇人として生きていくほどの苦悩を抱えた詩人は、当意即妙の詩文を作っては路銀や酒食を稼ぎ、家族が迎えに来ても家に帰ることがなかった。

(好)



▲金炳淵影幀



## 【翻訳資料】 20年前この道で…ヒョスンさん、ミソンさんを追慕する市民

2002年6月、京畿道ヤンジュ市で駐韓米軍の装甲車にはねられ亡くなった女子中学生故シン・ヒョスンさん、シム・ミソンさんの20周年追慕祭が6月13日、ヤンジュ市ヒョスン、ミソン平和公園で開かれた。

市民団体会員と宗教家など参加者は追慕祭に先立ち市内から事故現場まで行進した後、事故現場で故人を追慕して献花を行った。参加者が歩いた道は2002年、ヒョスンさん、ミソンさんが事故直前まで歩いていた道だ。歩道もない道で

二人の少女がむごたらしい事態にあった20年前とは違い、参加者は事故の翌年に設置されたモニュメントがある歩道を安全に歩く姿があった。

献花を終えた参加者は、市民の後援で2020

年、事件現場近隣敷地に作られたヒョスン、ミソン平和公園に到着すると、すぐに本格的な追慕祭が始まった。キム・ヒホン平和公園事業委員会代表は「事故の30周年にあたる2032年の完成

を目標に、ヒョスンさん、ミソンさんの事故記録、市民社会団体などの真相究明活動内容、キャンドル集会の写真などを展示する記録館建設を推進している」と明らかにした。またカン・スヒョン ヤンジュ市長当選者も「二人の死は悲しいが、現在も遺志を継承する方々がおり、決して無駄



▲被害者の遺影を先頭に行進する追慕祭参加者

になった死ではないと考える」と語った。

参加者は記録館建設を再確認しながら公園内に木を植え、追悼碑に献花し、この日の行事を終えた。(ハンギョレ新聞 2022/6/13)

### ◆◆行事案内◆◆

#### 韓統連セミナー2022 シリーズ「ウリ現代史」

##### 第1回「解放と分断」～新祖国建設に向かう怒涛の時代～(1945～1950)

日 時：7月17日(日) 午後1時30分 受付／午後2時 開会

場 所：KCC会館5階ホール(地下鉄今里駅2番出口から徒歩7分)

大阪市生野区中川西2-6-10

講 師：金昌範(キム・チャナム) 韓統連大阪本部副代表委員

参加費：800円(青年学生500円)

主 催：韓統連大阪本部 TEL 06-6711-6377

#### 朝鮮戦争・休戦協定締結69周年

##### 東アジアの恒久平和の実現をめざす7・27大阪集会

日 時：7月27日(水) 午後6時 受付／午後6時30分 開会

場 所：PLP会館(地下鉄扇町駅下車徒歩5分) 大阪市北区天神橋3-9-27

内 容：講演「尹錫悦政権下における韓日連帯運動の課題」

講師：韓忠穆(ハン・チュンモク) 韓国進歩連帯常任代表(リモート形式で行います)

韓国青年団体代表からのアピール(リモート形式で行います)

参加費：1000円

主 催：日韓平和連帯／問合せ：全日建連帯労組近畿地方本部 06-6583-5549